

TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

Vol.4 配信日：2019年8月2日 配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

静岡・下田 カジキ釣り紀行

東京歯科大学 大津 雄人

東京形成歯科研究会 TPDS NEWS でもお知らせしましたが、第41回 JIBT 日本国際カジキ釣り大会が7月25日～28日に開催され、無事終了となりました。あまり体験できない本トーナメントへの参加ですが、多忙な先生方にとって、オフとしてのレジャーが明日の活力となれば幸いとお誘いいたしました。同時に、以前から共同研究として共に絡んでいる東京歯科大学解剖学准教授の松永智先生が、“カジキの顎の発生と構造がきわめて比較解剖上貴重な事である”と言う事から、トーナメントに参加して頂き、JGFA 日本ゲームフィッシング協会の基本的理念の生態保全の上からも、生体採取の研究作業を手伝っていただいた。

前夜祭に参加し、私が昔協会の常任理事をやっていた時の懐かしい仲間に出会うことができ、健闘を讃えあった。第一日目はスタートフィッシング130艇のボートが一斉にスタートを切る様子は、他のスポーツでは体験できないすごい迫力でマイボートで出場した時を思い出した。スタートから30分もたたない内にヒットの無線が流れ、続々とヒットコールが続いた。結果的には130匹のヒット中64タッグとライディングされ、1日として歴代最高の記録となった。これで下田はカジキの世界的漁場として確固たる地位を築いたことになり、今後マーリンアングラは聖地として下田を目指すと考えております。

初日は東京歯科の研究者は参加せず、検量を終えて提供を受けたカジキの生体採取に柳時悦先生(東京形成歯科研究会・代表監事)にも手伝ってもらい、カジキの吻を共に切断して保存をした。採取には三重大学の水産学部もいたが、採取部位のバッティングが無く各々に採取できた。

2日目は台風の影響で中止となり、東京歯科大と合流し採取の再度の確認と手順の指導を受けた。最終日は何とか出航できた。同行した東京歯科大学インプラント科・大津雄人君による紀行文を拝読して頂きたい。

理事長・施設長 奥寺 元

静岡下田カジキ釣り紀行

東京歯科大学インプラント科 大津 雄人

次の瞬間カジキが水しぶきをあげるかもしれない。前かがみの熱い視線は20メートル先のイカに似せた疑似餌から離せなかった。

前日の釣果では多くのカジキが上がったというニュースがあったので、さあ、まだ見ぬ大物とのファイトを、大いに期待して旅にでた。

台風の接近で白波立つ海岸線は踊り子号よりくっきりと姿が見えていた。父と二人無理をして釣りに熱中したころのことが、しきりに思い出される。

風が落ち着く頃を待ち、スタートフィッシングの合図とともに横一列に並んだクルーザーは一斉に沖をめぐり全速力で走り出す。誰よりも早く仕掛けを魚の前に送り込みたい、釣り人は皆同じ気持ちだ。

“カジキストライク！”無線より耳に入る他船の歓喜への羨望をよそに、私には短すぎる夢のような時間が過ぎていった。

なぜカジキは生き残るためにあのような鋭い吻を手に入れたのか。そこに隠された神秘に触れるため、カジキの吻を標本にする支度をしながら私は再戦の戦略を練っている。



↑ スタートフィッシング



↑ 検量と採取風景



↑ 東京歯科大学のインプラント科大津君